

資料 1

流域下水道管破損事故対策検討委員会（第2回）

議事要旨

日時：2025 年 11 月 26 日（水） 14～16 時

場所：T K P 新橋カンファレンスセンター13 階 カンファレンスルーム 13N

1. 開会

- ・神奈川県竹内河川下水道部長より開会挨拶。

2. 議題

(1) 前回の議事について

事務局より、前回の議事について説明し、その内容が確認された。

(2) 前回委員会での意見と対応状況について

事務局より、前回委員会での意見と対応状況について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・掘削土砂と堆積土砂がおおむね一致し、大きな空洞の発生が土砂の収支の上では認められないとのことだが、細粒分が押し流されてしまっている可能性を考慮し、引き続き堆積土砂を分析して土砂の収支を確認するべき。
- ・流入する地下水とともに、礫分などの流出が生じていないか、引き続き下流人孔や処理場などで確認を続けるべき。
- ・空洞ができていないということが確認されているのであれば、モニタリングの内容を状況に合わせて見直していくことも考えられる。
- ・今後のモニタリングについては、空洞の発生から陥没に至るまでのメカニズムとそのリスクに応じた対応などを考慮して整理するべき。
- ・ウレタン注入による止水作業にあたっては、地下水への影響を把握し、周辺住民に対し、適切に対応するべき。
- ・復旧にあたり、東電シールド管の干渉部に手を加える場合には、全ての施工ステップにおいて、安全性を検証するべき。
- ・非開削案として、内面更生や断面修復のいずれかを行う場合には、将来的な維持管理の面もチェックしながら検討するべき。

(3) 今後について

事務局より、今後について説明があり、議論が行われた。

○委員からの主な意見

- ・薬液注入は、注入圧で既設の下水道管が影響を受けないか確認するべき。
- ・内面更生や断面修復については、適用条件や工事のリスクを考慮し、幅広く検討するべき。

(4) その他

○委員からの主な意見

- ・ これまでに実施してきた対策やモニタリングの全体像が分かる資料の整理が必要。
- ・ 陥没発生リスクシナリオを想定し、危機管理対応として BCP を県、市、警察や消防など関係者と共有しておくことが望ましい。

以上